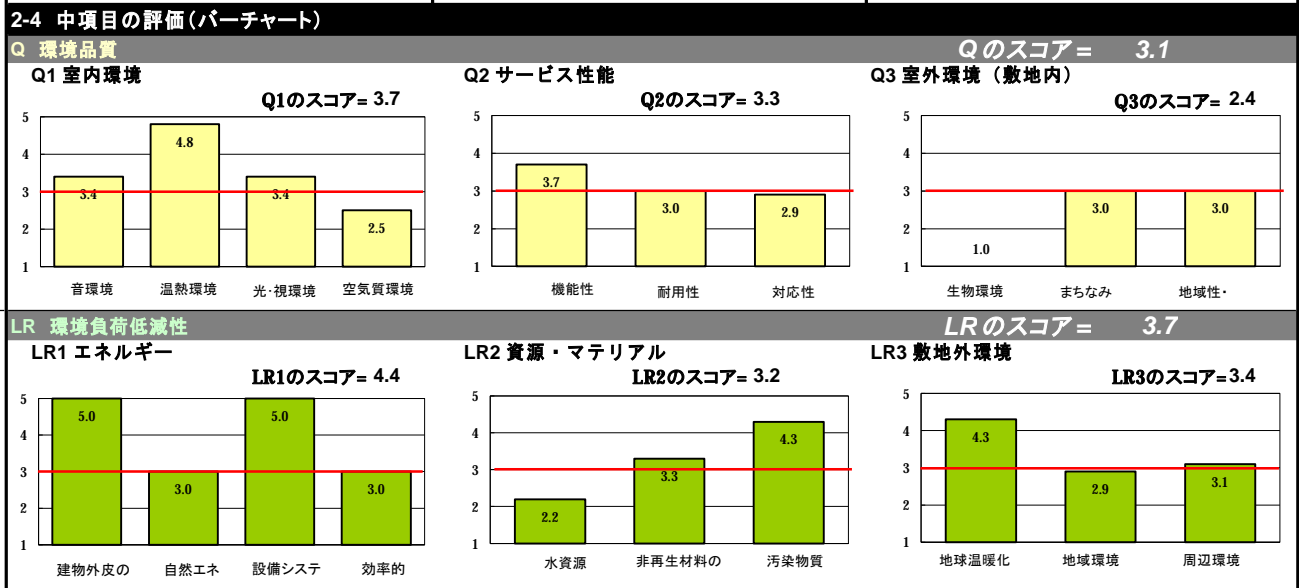
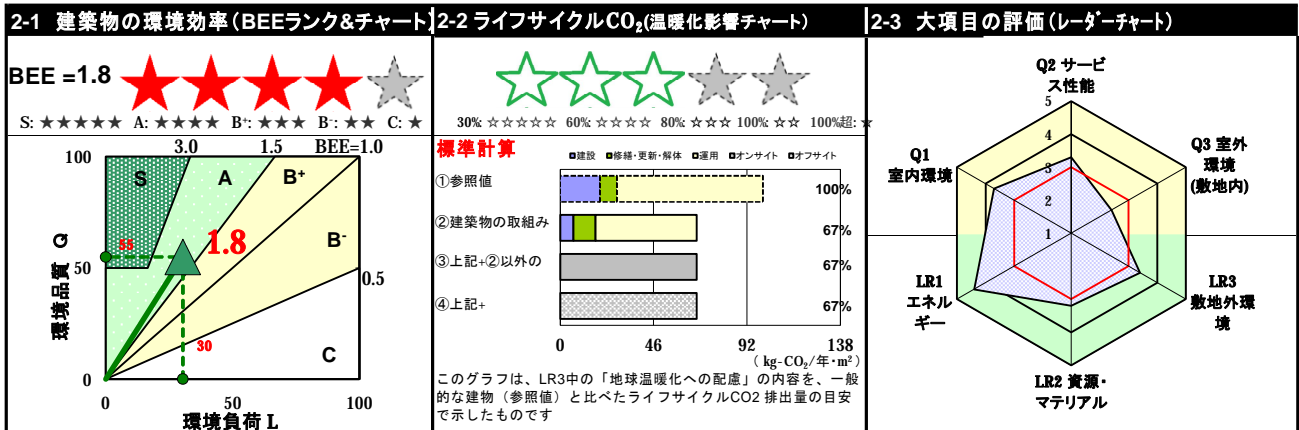


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)島本町青葉3丁目計画 新築工	階数	地上14F
建設地	大阪府三島郡島本町青葉	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,184 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年7月 予定	評価の実施日	2023年3月27日
敷地面積	11,106 m ²	作成者	長谷工コーポレーション 森川
建築面積	2,476 m ²	確認日	2023年3月31日
延床面積	22,896 m ²	確認者	長谷工コーポレーション 萩山



3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>環境負荷低減を図り、緑地を整備することで住環境と周辺環境に配慮した計画としている</p>		<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>室内環境向上を目指し、断熱性能向上や遮音対策を施している</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>居室はベッド等の家具がきちんとおける広さの部屋を確保したり、天井高を2.4m以上確保し、機能性に優れた計画としている</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>敷地境界際に緑地帯を設け、周辺環境に対して良好な景観となるよう配慮している</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を取得することで建物の負荷抑制に努めている</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>有害物質を含まない建材種別の採用を重視している</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>建物利用者のための適切な駐車駐輪スペースを確保し、交通負荷を抑制している</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	(仮称)島本町青葉3丁目計画 新築工事					
	建設地	大阪府三島郡島本町青葉					
	用途/区分	集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
	エネルギー消費量の報告					対象外	
【評価項目】							
	項目	評価内容				スコア	評価
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				4.3	4
②	みどり・ヒートアイランド対策						
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				1.0	2
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0	
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				3.0	
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				5.0	5
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	○
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	-
その他							
		技術の名称			考慮事項		
	先進的技術の導入						
	特に配慮した事項						